

様式第1号（第7条関係）

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

令和2年 12月 8日

和泉市長 あて

団体名 パソコン会

代表者名 迫田千鶴

所在地

電話

和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	障がい者のためのパソコン教室
申請コース	(1) 公益活動支援コース ■チャレンジコース □ステップアップコース (2) 地域活性化コース □地域活性化コース
事業費総額	40,000 円 (うち、対象経費 40,000 円)
支援金 交付申請額	26,000 円

1. 支援対象団体と決定した場合、和泉市の後援名義を使用しますか。

(はい) ・ いいえ)

2. 添付資料

- (1) 団体概要調書（様式第2号）
- (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
- (3) 事業計画書（様式第3号）
- (4) 収支予算書（様式第4号）
- (5) その他市長が必要と認める書類

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

団体概要調書

フリガナ	パソコンカイ		
団体名	パソコン会		
団体の目的	障がい者のためのパソコン教室を開催することによりパソコンの技術を習得し、障がい者の社会参加を促す。		
市内事務所の所在地			
	電 話		FAX
フリガナ	サコタ チツル		
代表者氏名	迫田 千鶴		
連絡先 ※この申請について問い合わせをしたときに対応できる方	(連絡責任者氏名)※		電 話 ()
	フリガナ		FAX ()
	同上		
(住所) 上記事務所以外に資料送付を希望する場合はご記入ください。			
設 立 年 月	平成 18 年 10 月	主な活動地域	和泉市
会報等の発行	有 () 回発行) ・ 無	会員数	7人
メールアドレス	@		
ホームページ	http://		
主な事業内容	障がい者のためのパソコン教室		
主な活動の実績	障がい者のためのパソコン教室		
国・府・市及び各種団体等からの他の補助金及び委託実績 (過去3年間の実績を記載)	年度	名称	金額 (円)

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

事業計画書

1 事業名	障がい者のためのパソコン教室
2 申請コース	(1) 公益活動支援コース <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジコース <input type="checkbox"/> ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
① 事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等 障がい者は外出する機会が少なく、家に閉じこもりがちなので、少しでも外出する機会を増やしたかった。	
② 事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果 障がい者がパソコンの技術を習得し、インターネットを活用することで、積極的に社会参加するきっかけとなる。	
4 事業内容（※別紙添付可）	
①問題点、課題を解決するためにどのような方法を用いてどのような事業を実施しますか。 和泉市障がい者手帳をお持ちの方を対象に、パソコン教室を開催し、パソコンの技術を習得したり、インターネットの使い方を学ぶ機会を提供する。	
②実施期間（日時）	毎月 第2木曜日 午後1時30分～3時30分
③実施場所	和泉市立北部総合福祉会館
④主な対象者	和泉市障がい者手帳を持っている人
⑤参加予定者数	参加予定者数 のべ約 60人
⑥告知方法	チラシ配布

5 事業スケジュール	
次期(月)	内容
4月 から 翌年3月	毎月 第2木曜日 午後1時30分～3時30分 和泉市立北部総合福祉会館にて 障がい者のためのパソコン教室開催
6 審査項目からみた事業の自己PR ※要綱別表第2審査基準参照 (実施事業について、どのような点が優れているかなどを審査項目ごとに記入してください。)	
① 公益性	健常者のためのパソコン教室は、たくさん開講されているが、障がい者のためのパソコン教室は、珍しいと言える。したがって、障がい者に理解のある市民の皆さまには、共感を得られる事業と言える。障がい者のためのパソコン教室ではあるが、障がい者が活動できる場ができることで、障がい者はもとより家族の方々にも有益な事業と言える。誰もが暮らしやすい社会を作るためには、大切な事業と言える。
② 継続性	平成18年から始めており、今まで続いていることで継続性はあると言える。常に、チラシなどで、参加者募集を呼びかけており、参加者からは、前向きな意見が多い。発足当時から、資金がなく、個人の持ち出しでの運営が続いたが、今は、参加者から参加費を徴収したり、寄付金のお願いなどを行っている。
③ 実行性	2020年度も、コロナの影響で会館が閉鎖になったときを除き、教室を継続することができた。パソコン講師やボランティアスタッフなどに毎年ご協力いただいている。
④ 協働性	パソコン講師を引き受けてくださる団体があり、協力体制はできている。また健常者のボランティアスタッフも毎回サポートしてくださっている。また、本事業を行うことで、講師、ボランティアスタッフ、参加者間での交流が生まれる。
⑤ 公開性	チラシを作成し、障がい者向けに様々な講座やイベントを開いている和泉市立北部総合福祉会館等で、参加者募集を呼びかけている。
⑥ 発展性 (先駆性・ 展開性) (集客性)	パソコンの技術を習得することで、生活の質が向上し、社会参加に対して意欲が出ている。参加者にとって、有意義な活動であり、今後の継続を望む声が多いため、活動を継続していきたい。

この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

収支予算書

事業の名称：障がい者のためのパソコン教室

1. 【収入】

（単位：円）

項目	金額	積算根拠
支援金	26,000 円	和泉市市民活動推進支援金
事業収入	4,000 円	参加費
自主財源	10,000 円	自己資金
合計	40,000 円	

2. 【支出】

（単位：円）

費目	金額	積算根拠（数量、単価等）
	27,000 円	講師謝礼 1,000 円×2 人×12 か月＝ 24,000 円 ボランティアスタッフ謝金 3,000 円
	1,000 円	コピー代
	3,000 円	はがき・切手代
	3,000 円	講師お茶代
	6,000 円	運営のための交通費 500 円×12 回
備品費(対象経費)		
備品費(対象外経費)		
合計	40,000	
対象経費	40,000	

※費目は、別表第3（第10条関係）に記載されているとおりに記載してください。

※備品費（対象経費）には備品以外の対象経費の合計を3で除した額もしくは1品あたり上限5万円で算定した備品費のいずれか低い額を記載してください。

備考 実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書等を添付する必要があります。

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。